



矢巾キャンパス附属病院移転敷地において建設が進む
エネルギーセンター (平成27年10月28日撮影)

主 陵 会 々 報

発行所
岩手医科大学主陵会
〒020-8505盛岡市内丸19の1
Tel 019 (651) 5111 番
Fax 019 (624) 8380 番
E-mail: info@keiryokai.gr.jp
URL http://www.keiryokai.gr.jp
題字 三田定則 先生書成
発行人 石川 育成
編集人 前沢 千早
印刷所 山口北州印刷

1 月 号

目 次

新年のご挨拶	主陵会会長 石川 育成	支部だより	2320
退任・学長 小川 彰	1	医学部同窓会だより	27
教授就任ご挨拶	3	歯学部同窓会だより	27
学術振興会研究助成・褒賞募集	1	薬学部同窓会局長 齊藤和好	27
主陵会学生支援事業の公示	2	新年のご挨拶 会長 城 茂治	27
主陵会本部だより	1	表彰の栄誉・トピックス	27
主陵会・医歯同窓会今後の予定	1	在学生との懇親会	27
創立百二十周年記念事業募金	1	東医体・全歯体等報告	27
		お祝い・ご逝去・編集後記	27
		4039383130	



新年のご挨拶

主陵会会長 石川 育成

会員の皆様には、おそろいで良い新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
本年の岩手医科大学の予定を並べてみますと、現在我が母校が大きな歴史の転換点にさしかかっていることをひしひしと感じます。

まず、「新病院」の建設に先駆けて矢巾キャンパスに平成二十六年十一月から建設を進めて参りました「エネルギーセンター」が三月に完成致します。

総合移転整備計画の最終章の事業であり百二十周年記念事業でもある「新病院」の建設については、建設資材の高騰等により当初の計画より事業費が大幅に増加したことから、基本設計の全面的な見直しを行い平成二十八年度初頭には設計が完了致します。これにより、平成三十一年三月の完成、同年五月の開院に向けて、本年度から新病院本体の建設工事が本格的に開始される予定です。

また、平成二十七年八月三十一日、文部科学省が学校法人岩手女子奨学会から本学への経営移管の認可を行いました。その為、本年四月からは本学で「岩手看護短期大学」としての看護師養成が開始致します。さらに来年平成二十九年にはその「岩手看護短期大学」を母体とした「看護学部」

が本学に設置されることとなっております。これにより、明治四十年からの歴史を持つ医学部に加え、昭和四十年開設の歯学部、平成十九年開設の薬学部、平成二十九年開設の看護学部を併せて、まさに医学部・歯学部・薬学部・看護学部の医系四学部を持つ全国にも例を見ない医系総合大学となります。そして、医・歯・薬・看護の四学部の学生が同一キャンパスで共に学ぶという全国初の取組みが開始され、チーム医療を目指す医系総合大学として更なる発展が期待されております。

このように母校岩手医科大学は新病院の建設、内丸メデイカルセンターの整備、看護学部の設置、創立百二十周年記念事業の推進と大事業が控えております。また一方では少子化により受験生が減少する中での優秀な学生の確保、各学部の国家試験合格率の改善、ハーバード大学との提携による歯学部改革プロジェクトの実施等厳しい情勢に対応して改革も進めて行かなければなりません。

これらを進めていくためには主陵会会員の協力はなによりも重要であります。主陵会として一層の努力を傾注してまいりますので、会員の皆様におかれましても絶大なご理解とご支援をお願い申し上げます。



新年のご挨拶

岩手医科大学

理事長・学長

小川 彰

あけましておめでとうございます。

来年は、いよいよ創立百二十周年を迎えます。長い歴史の中で存続すら危ぶまれた時期もありましたが、先人の「不撓不屈」の努力によって本学は発展を続けています。建学の精神である「誠の人間の育成」、「厚生済民」は、今も受け継がれています。

四月からは岩手看護短期大学が本学に移管されます。来年四月には四年制の看護学部を設置し、医・歯・薬に加えて四学部の医療系総合大学となる予定です。医系四学部の学生が同じキャンパスで顔が見える環境で学べるのは本学しかありません。

さて、矢巾キャンパスに建設中のエネルギーセンターはこの三月には完成し、いよいよ新附属病院の本体工事に着手します。高度診療・入院機能を持つ一千床規模の特定機能病院として予定通り平成三十一年に開院予定です。周辺はスマートインターや道路整備が

進みアクセスが格段に向上します。

新病院建築に当たっては物資高騰のあおりを受け、計画遂行すら危ぶまれました。しかし、岩手医大式ECI方式を採用し、複数の施工業者からVE提案を提出頂き事業費の大幅削減が可能となり、予定通り事業を継続出来る目途がつかしました。しかし、新病院完成後は内丸メデイカルセンターを中心に内丸地区の再開発が控えています。総合移転整備計画は内丸地区再開発の完成まで続く息の長い事業です。これらを順調に進めるため、今大業をあげて教職員一丸となった経営改善、体質改善を進めています。

新病院は、日本にまた世界に冠たる最新鋭病院でなければ新築移転の意味もありません。この点、素晴らしい病院建屋が完成しても、多くの最新鋭医療機器がそろわなければ最新鋭病院にはなり得ません。病院の高度機能を担保する最新鋭医療機器整備には、資金がい

くらあっても足りません。その意味でも圭陵会の皆様にはご支援をお願いする次第です。

本学へのご寄付に関しては「受配者指定寄付金」「特定公益増進法人に対する寄付」として税の優遇制度が適応されますので、国税金として納めるか、母校の発展に寄与するかの選択に近いものがあります。

ご苦労され本学を發展させてきた先人から歴史を築いてゆく後輩に対する責任として、歴史ある本学をさらに發展させつつ存続させる必要があります。これが本学で学ばせてもらった私共の義務と考えております。皆様にはこの辺の事情をご賢察の上ご支援賜りますようお願い申し上げます。

本学へのご寄付の詳細につきましては、創立百二十周年記念事業事務局へ

お問い合わせください。

お問い合わせ先

〇一九一六五一一五一一一(内線七〇二二)